

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>【めざす学校像】○元気なあいさつが響き合い清掃が行き届いた学校 ○教師と子供相互が信頼し合い和やかさの中にも規律ある学校 ○子供一人一人を全職員で見守り育てようとする学校</p> <p>【めざす子供像】○相手の立場を理解し、協力して共に伸びる子供 ○意欲的に学習し、よく考え、創意工夫する子供 ○心身の健康づくりに励み、明るく元気に行動する子ども</p> <p>【めざす教員像】○子供の「わかった」「できた」喜びを自分の喜びにできる教師 ○子供の目を見て話を聞き公平に温かく愛情を持って接する教師 ○自分の目標をもち、学校経営方針の具体化・具現化に参画する教職員</p>		<p>確かな学力の向上</p> <p>学級・学年経営の充実(生徒指導の充実)</p> <p>いじめ・不登校を生まない開かれた学校づくり</p>	<p>・学習規律の徹底と学習習慣の確立 ・新学習指導要領完全実施(H32年度)を見据えた授業改善(主体的・対話的で深い学びの推進) ・中間テスト後の補充・発展学習の充実 ・外国語活動、外国語学習の見直し</p> <p>・諸行事・諸活動の共通理解・共通実践 ・アンケート調査等を活用した取り組みの見直し、改善 ・学年合同、少人数分割、教科担任制授業等指導方法工夫改善の推進 ・全校朝会等を活用した個人・学級の頑張りを賞賛する場の設定</p> <p>・アンケート調査等の活用と出欠状況をリンクさせた定期的なケース会議及び研修の設定 ・原則月1回の学習参観・懇談会の実施と参加啓発、普段からの情報共有(保護者との信頼関係の構築) ・保護者、地域(外部)人材とともに学習活動の推進(社会に開かれた教育課程の推進)</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の向上	学期ごとのまとめのテストで、国語・算数共に平均得点87点を達成する。	・学期ごとの中間・まとめのテストで、学校全体では目標87点に到達したが、到達できていない学年・教科がある。	
	中間テスト実施後、パワーアップ週間を設定し、児童の課題に応じた補充学習・発展学習を実施する。	・中間テスト実施後、パワーアップ週間を設定し、補充・発展学習を実施できた。また、重点学年ごとに給食準備時間を有効活用し、算数の補充学習(ファイト教室)も行えた。	
	言語活動の充実を図る。結果として、授業中に自分の思いや考えを表現できていると肯定的回答する児童80%を達成する。	・授業中、児童の交流活動を積極的に取り入れ、自分の思いや考えを表出させる場を設けるようになってきた結果、肯定的回答児童が81%となった。	
	外国語・外国語活動のアンケートでコミュニケーションが楽しいと肯定的回答する児童82%を達成する。	・外国語におけるコミュニケーションが楽しいと回答する児童は、学校全体では目標82%を達成できた。高学年になり学問的になるほど課題はある。	
学級経営の充実	安全点検・ヒヤリハット事例の報告会(月1回)に加え危機管理研修を実施することで学校事故・病院搬送件数の減少を図る。	・毎月、校内の安全点検を確実に行うことができた。危機管理に関しては、事故に繋がるかもしれない事例があった時に、その都度全職員で共通理解し未然防止に努めた。	
	毎朝の健康観察をもとに、児童の出席状況を確認し、不登校未然防止に向けた組織的取組を行い、不登校ゼロをめざす。	・毎朝の健康観察をもとに、担任・養護教諭・管理職で児童の出席状況を確認することができた。不登校傾向が見られる児童に対する個別の支援を組織的・継続的にを行い、現時点で不登校児童はいない。	
	挨拶指導の徹底を図る。結果として、児童の自己評価・保護者の評価共に80%を達成する。	・挨拶に関しては、児童・保護者評価共に目標80%を達成することができた。今後は個人差があること、学校外での挨拶の仕方が課題であると考える。	
	毎月月末に学級経営案に基づいた振り返りを行い、次月の改善策を練ることについての賞賛と指導助言を行う。	・学級経営の振り返り、指導助言は毎月行うことができた。	
研修の充実・深化(特に若手教員の育成)	教育情報や学校経営の方針、授業づくりのヒント等を記した教育通信を年間20回発行する。	・教育情報や授業改善等に関する教育通信は、児童・教師のその時の状況に応じて必要な内容を適時発行することができた。	
	若手教員のスキルアップを目的とした研修会を毎月1回開催する。	・若手教員のみならず全教員の力量アップを目指して、校内教員講師のみならず他校のスペシャリストも講師に招いて、ニーズに応じた研修を設定することができた。	
	全教員が年間1回以上授業を公開し、授業研究を行う。	・外国語活動・外国語を中心に、全教員が年間1回以上授業を公開し、授業改善に向けた協議を行うことができた。	
	定時退校日を確実に実施するとともに、職員の福利に資する行事を実施することを通して職員のメンタルヘルスの維持を図る。	・定時退校日に対する意識化が図られ、普段から効率よく職務に励む姿勢・体制が定着してきた。法で義務づけられているストレスチェックの結果は、職場全体として良好である。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>○確かな学力の向上で、学校全体としてほぼ目標を達成できたことは評価に値する。</p> <p>○学級経営の充実で、危機管理に徹し病院搬送件数が減少し、現時点で全く学校に足が向かない児童はいないということで概ね目標を達成できている。次年度は、挨拶について、個人差や学校外での課題改善にさらさら手だてを期待する。</p> <p>○研修の充実・深化については、全教員が授業研究を行ったり、ニーズに応じた研修が行われたり概ね目標を達成できている。</p> <p>○学校内外の子供たちの姿から、健やかに成長しているのが伺える。次年度、学校が課題と感じている自主性を育むとともに「話す・聞く」対話活動の充実を図っていくとよい。また今後若年教員率が上がることを考えると、学習指導はもちろん、児童に善悪の判断をきちんとつけていけるような指導を教員自身が習得し、力を発揮していくことが必要だと思われる。</p>			